

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ボスニア・ヘルツェゴビナ	案件名：地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト
分野：平和構築	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：社会基盤・平和構築部	協力金額（評価時点）：約3億1,000万円
協力期間	2014年1月～2017年3月
	先方関係機関： スルプスカ共和国（Republic of Srpska：RS）農林業・水管理省（Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management：MOA） ブラトナツ市、ロガティツァ市、スレブレニツァ市
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト
1-1 協力の背景と概要	
<p>ボスニア・ヘルツェゴビナ（Bosnia and Herzegovina：BiH）は、包括的和平合意後20年以上が経過したが、中央政府のもとに、ムスリム（ボシュニアック）及びクロアチア系住民が中心の「ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦」とセルビア系住民が多数でボシュニアックも居住する「スルプスカ共和国（Republic of Srpska：RS）」の2つのエンティティ（高度な自治権をもつ行政主体）が存在し、国内の民族融和はなかなか進んでいない。</p> <p>JICAでは、農業・農村開発による民族和解を目的として「スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト」（2008年9月～2013年11月）を実施した。同プロジェクトでは、ハーブ生産・加工、野菜栽培、養蜂、児童保育施設運営などの事業を展開し、コミュニティ社会の再構築と住民の経済的自立のための協力を実施した。その結果、裨益住民の収入の向上、多民族社会の安定化に必要な情報公開・交換による透明性の向上等が確認された。</p> <p>これを高く評価したRSの農林業・水管理省（Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management：MOA）の要請を受け、2014年1月よりJICAは、対象地域をスレブレニツァ市と隣接するブラトナツ市、ロガティツァ市の3市へ広げ、前プロジェクトと同様の事業を実施するとともに、裨益効果の持続性を図る観点から市役所の関与を高め、住民融和が促進されることを目的として、「地方開発を通じた信頼醸成プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」と記す）を実施している。</p>	
1-2 協力内容	
<p>本プロジェクトは、ブラトナツ市、ロガティツァ市、スレブレニツァ市を対象として、農業・農村開発事業、市役所の能力機能強化、RSのMOAとの情報共有を通じ、対象地域における包括的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制の強化を図り、もって住民の融和の促進をめざすものである。</p>	

(1) 上位目標

包摂的で公平な農業・農村開発事業の実施体制の強化を通じ、住民の信頼醸成が促進される。

(2) プロジェクト目標

対象地域において、包摂的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制が強化される。

(3) 成果

- 1) 現場のニーズを踏まえた生計向上に係る農業・農村開発事業が実施される。
- 2) 対象地域における市役所の農業・農村開発支援能力機能が強化される。
- 3) 市役所機能強化及び地域住民生計向上の取り組みが、RSのMOAに対し共有される。

(4) 投入（評価時点）

- 1) 日本側：総投入額 約3億1,000万円
長期専門家派遣：2名 機材供与：約900万円相当
短期専門家派遣：1名
ローカルコスト負担：約2億1,100万円相当〔2016年7月31日時点、3,614,289.16KM：1KM（兌換マルク）＝¥58.4〕
研修員受入：計14名
- 2) ボスニア・ヘルツェゴビナ側
カウンターパート（Counterpart：C/P）配置：延べ18名
土地・施設提供：プロジェクト事務所の提供、苗床の土地提供
ローカルコスト負担：研修・ワークショップ費用、小規模インフラ建設費用、蜂蜜工場修復費用等、活動に必要な費用を負担

2. 評価調査団の概要

調査者	日本側		
	担当分野	氏名	所属
	総括/平和構築	橋本 敬市	JICA 国際協力専門員（平和構築）
	評価企画	山岸 真希	JICA 社会基盤・平和構築部 平和構築・復興支援室 特別嘱託
	評価企画	平島 淳	JICA バルカン事務所 企画調査員
	評価分析	田中 恵理香	株式会社グローバルリンクマネジメント シニア研究員
	ボスニア・ヘルツェゴビナ側		
	氏名	所属	
	Mr. Vladislav TRIFKOVIC	スルプスカ共和国 農林業・水管理省 農業政策・国際協力部長	
	Mr. Vladan MILOVANOVIC	スレブレニツァ市 経済開発部長	
	Mr. Radenko RADOVIC	プラトナツ市 経済社会部長	
	Mr. Darko NOVAKOVIC	ログティツァ市 経済社会部長	
調査期間	2016年8月27日～2016年9月18日		評価種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) プロジェクト目標

【指標】

1. プロジェクト終了時まで、市役所主体による活動事例の数・種類がプロジェクト開始時と比較して増加する。
2. 対象地域住民のコミュニティ開発に係る行政サービス（農業関連支援、情報提供、その他サービス）への満足度が上昇する。
3. 対象地域住民の収入が増加する。

【実績】

プロジェクト目標は達成されつつある。指標のうち、1と2は達成される見込みである。3については、終了時評価時点では住民の収入の増加が必ずしも明確でないが、今後達成される見込みはある。

1. 市役所主体による活動事例がいくつかみられる。ブラटनाッツ市では、ラズベリーの苗木を栽培して配付するためのラズベリー・ナーサリーを設立した。同事業にあたっては、市役所がナーサリー（苗床）のための土地を提供し、JICAがラズベリーの種苗を供与、ドナー協調の一環としてUNDPがナーサリーの周囲のフェンスを提供した。ナーサリーを運営する団体では、ラズベリー栽培を始める住民に苗木を配付している。同市では、数年のうちにナーサリー団体が財政的に自立できるようにしていく計画である。ブラटनाッツ市のナーサリー設立に続き、スレブレニツァ市でも同様のナーサリー団体の設立を計画している。ロガティツァ市では、ヒツジの飼育センターを設立する計画を進めている。
2. 終了時評価でのインタビューによれば、受益者の大半はプロジェクトが支援した事業に関する市役所のサービスに満足している。プロジェクトの活動を通じ、市役所とのコミュニケーションが向上したとコメントする住民もいた。C/Pのなかにも、地域住民から市役所に対し助言を求められる機会が増えたとする者がいた。プロジェクト活動の実施においては、地域住民間で問題が起こった際に市役所が重要な役割を果たすこともあった。これらのことにより、市役所のコミュニティ開発に係る行政サービスに対する地域住民の満足度と信頼は向上していると判断される。
3. エンドライン調査によれば、ロガティツァ市では、2014～2016年の間に、収入が3,000KM以上の世帯の割合は、52%から85%と顕著に増加している。スレブレニツァ市では、2013～2016年の間に、1,000KM～6,000KMの収入の世帯の割合が、45%から51%と若干増加しているものの、6,000KM以上の収入の世帯の割合は53%から43%に減少している。スレブレニツァ市においては2006年よりJICAの支援を行っているため、本プロジェクト開始時の2013年には一定程度の収入増加を既に達成していた。そのため、本プロジェクト期間の顕著な収入増加はみられない。インタビューでは、3市とも、受益者の多くが、プロジェクトで導入した活動により収入が増加したと回答していた。

(2) 成果

1) 成果 1

【指標】

1-1. 市役所、MZ^{*}、住民グループ、現地 NGO 等、関連組織による活動の実施状況

〔*MZ：市の下に位置づけられる行政区（住民自治組織）〕

【実績】

PDM では指標の目標値が明示されていないものの、3 市で農業・農村開発事業が実施されていることから成果 1 は達成される見込みである。

1-1. C/P 機関、日本人専門家、関連する NGO/農民組織/農業組合の協力により、3 市において、ラズベリー栽培、果樹栽培、野菜栽培、家畜飼育、牧草地再生、小規模インフラ建設等の農業・農村開発事業が実施された。農業・農村開発事業を通じ、約 2,500 人の住民が裨益した。牧草地再生や農業機械供与等コミュニティ全体に裨益する活動を含めると、受益者の数はさらに増加する。受益者の選定にあたっては、セルビア系・ボシュニャック両民族の割合に配慮した。

2) 成果 2

【指標】

2-1. RS の MOA への対象地域からの補助金申請件数が増加する。

2-2. 対象地域農家・農民組織から市への申請されるプロポーザル件数が増加する。

2-3. 申請案件中、採択されるプロポーザルの割合が増加する。

2-4. 市役所によって農業・農村開発活動に関する情報が収集され、記録される。

2-5. 市役所による入札や事業対象者の選定・募集等情報普及活動が少なくとも 1 年に 1 回以上実施される。

【実績】

市役所の組織能力強化は進捗しており、成果 2 は達成されつつあると判断される。

2-1. 対象地域における補助金の申請件数は、増加している。地域で農業に従事する農民は、一定以上の生産高を上げると RS の MOA からの補助金を申請できることになっている。これら補助金は、ラズベリー栽培農家やウシ飼育者らにも適用されている。インタビューでは、プロジェクトでの活動により、農牧業の生産高が増加していることから、補助金申請数が増加していると思込まれる。市役所では、農民に対して、補助金申請のプロセスを円滑にするための支援を行っている。

2-2. 対象地域農家・農民組織から市への申請されるプロポーザル件数は増加している。農民は、必要に応じ市役所に対して事業のプロポーザルを申請している。ログティツァ市では、農業分野における投資事業に関して一般からプロポーザルを募集し、承認されたものは市の予算案に組み込んでいる。これは、市役所において住民の意向を取り入れた事業を展開する方針とそのための体制ができていたためと思料される。

2-3. 申請案件中、採択されるプロポーザルの割合は増加している。インタビューでは、ログティツァ市で非営利団体として地域開発にも関与するツーリズム団体によるプロポーザルが承認され、2016 年度の予算案に採用されたということであった。

2-4. 対象 3 市とも、農業・農村開発に関する情報を収集している。ブラトナツ市とログティツァ市では、活動のモニタリング結果がデータベースに記録され保存されている。

る。スレブレニツァ市では、同様のデータベースは、終了時評価時点では構築されていない。

2-5. 対象3市では、入札や受益者選定等に関する情報公開を定期的に行っている。さらに各市では、地域の住民や農民組織に対し技術的な助言を行っている。ブラトナツ市では、現場で活動を行っているラズベリーの専門家と協力して技術的助言を行っている。

3) 成果3

【指標】

3-1. RS の MOA への各市役所からの事業進捗にかかる報告が定期的実施される。

【実績】

成果3は達成されつつある。

3-1. 対象3市では、RS の MOA と情報交換を行っており、RS の MOA と各市の間で情報が共有されている。MOA との情報共有にあたっては、各市において C/P が中心的な役割を担っており、この C/P を核として今後も情報共有が進展していくものと考えられる。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

プロジェクトの妥当性は、おおむね高い。

プロジェクト実施のニーズは高い。対象地域には紛争の影響を受けた被害者が多く居住しており、その多くが依然として経済的困難を抱えている。セルビア系とボシュニアックの間で紛争があったことから、地域社会のキャパシティを高めるためには、民族間の融和を図り、地域社会の住民間の信頼を醸成することが求められている。さらに農村開発を継続的に実施していくためには、市役所の能力開発が必要である。対象の3市では、目立った産業がなく雇用機会が限られており、雇用の創出が困難であることから、住民の多くは農業に依存している。

本プロジェクトは、BiH と対象3市の政策と合致している。RS の農業・農村開発の戦略計画（2015～2020年）では、「ビジョン」として、食品加工業も含めた農業分野が重要な経済セクターであると記載されている。また、同「ビジョン」では、農村部において、すべての社会階層が平等な基盤に基づき生活環境を享受できることを掲げている。これは、民族間の信頼醸成の必要性を示唆しているといえる。対象3市の開発計画では、農業が優先分野になっている。プロジェクトの農業・農村開発事業で実施した活動は、いずれも各市の戦略的な農産品と合致している。

本プロジェクトは、BiH に対する日本の政府開発援助（Official Development Assistance : ODA）と合致している。同国に対する国別援助方針では、基本方針（大目標）として「社会の安定化と経済発展に向けた側面的支援」が挙げられている。この大目標の下、重点分野として、「平和の定着・民族の和解」と「環境に配慮した持続可能な経済成長」の2点が挙げられており、本プロジェクトは、「平和の定着・民族の和解」の重点分野のなかに位置づけられている。

プロジェクトの計画は、おおむね適切であるが、計画段階で正確な情報が不足していた

ことにより、一部の指標が適切に設定されなかった。

(2) 有効性

有効性は、比較的高い。

成果 1（農業・農村開発事業の実施）、成果 2（対象市役所の農業・農村開発支援能力機能化）、成果 3（RS の MOA との情報共有）のそれぞれの指標は達成されつつある。また、プロジェクト目標の指標の 1（市役所主体による活動事例の数・種類がプロジェクト開始時と比較して増加）、2（対象地域住民のコミュニティ開発に係る行政サービスへの満足度が上昇）が達成される見込みであり、3（対象地域住民の収入が増加）に関しては修了時評価時点では明確ではないものの、インタビューでは受益者の多くが、プロジェクトで導入した活動により収入が増加したと答えていることから、今後達成の見込みがある。これにより、「対象地域において、包摂的で公平なコミュニティ開発事業の実施体制が強化される」というプロジェクト目標は達成されつつあると思料される。

成果からプロジェクト目標に至るロジックはある程度適切といえる。成果 1（農業・農村開発事業）と成果 2（対象市役所の組織能力）は、いずれも、プロジェクト目標である公平で包摂的な地域開発の実施体制を実現するために必要なコンポーネントである。成果 3（市役所機能強化及び地域住民生計向上の取り組みが RS の MOA と情報共有される）は、地域開発の実施体制を強化するために重要ではあるが、実際には、MOA のプロジェクトへの関与は技術的助言にとどまっており、MOA からの技術的助言自体は重要ではあるものの、MOA との情報共有が対象 3 市におけるプロジェクト目標の達成にどの程度貢献したかは明確でない。

PDM に記載された成果以外にも、プロジェクトの活動によりいくつかの効果が発現している。例えば、3 市の間でのコミュニケーションが促進されたことにより、スレブレニツァ市がロガティツァ市からヒツジを購入したのは、対象市間の協調した活動といえる。また、スレブレニツァ市の予算により、スケラニのプロジェクト事務所の隣にある古い校舎が蜂蜜加工工場に改装された。さらに、前プロジェクトの期間中に日本の草の根・安全保障無償資金協力により建設された家畜市場において、2016 年 9 月に農業祭が開催された。

(3) 効率性

効率性は、おおむね高い。

投入は BiH 側・日本側で適切に行われた。3 市で 18 名の C/P の配置、2 名の日本人専門家の派遣、農業・農村開発事業に必要な資器材の供与、本邦研修、BiH 側及び日本側からの必要な経費の支出など、投入の質・量・タイミングとも適切であり、成果の発現に貢献した。これらから、効率性はおおむね高いといえる。また、3 つの成果はいずれも達成されつつある。

投入から成果に至るロジックは適切である。活動に必要な投入が行われ、成果の発現につながった。

成果発現のための 2 つの外部条件（自然災害と病虫害）が設定されているが、これら外部条件により、成果の発現が若干の影響を受けたものの、プロジェクト全体の成果を大きく阻害するようなことはなかった。

(4) インパクト

インパクトは、大きい。

上位目標は達成される見込みである。対象地域における民族間の信頼醸成は進んでいる。プロジェクトの活動を通じ、住民は、共同で作業を行い、機材を共同で利用し、互いに交流を図っている。対象地域の住民の間での信頼醸成に加え、住民と市役所の間での信頼も向上している。さらに信頼醸成を促進するためには、住民が共同で作業できるような事業を対象市役所のイニシアティブにより継続的に実施していくことが必要である。今後上位目標の達成を阻害する要因となり得るのは、社会経済状況の変化や治安の悪化である。

プロジェクト目標から上位目標に至るロジックは適切である。信頼醸成のために農業・農村開発事業を実施することは適切であり、これら事業を継続的に実施するためには、対象市役所の実施体制を強化することが必要となる。

その他のインパクトがいくつか認められる。まず、プロジェクトで農業・農村開発事業を導入した後、収入基盤ができたことから、雇用を求めて他の地域に流出する人が減少している。また、プロジェクトに関する情報が対象3市以外の地域にも普及しており、プロジェクトのことは対象地域以外でも広く知られるところとなっている。対象地域における信頼醸成の経験が全国的に紹介されれば、民族融和に向けた意識が一層高まることが期待される。

(5) 持続性

持続性は、中程度である。

政策面の持続性は高い。RSのMOAにおいても、市においても、農業・農村開発を重視する政策は継続していくものと考えられる。

組織面での持続性はある程度見込まれる。C/P機関の運営能力は、向上している。プロジェクトの活動を通じ、対象3市で、受益者選定やモニタリング等の実施手順が導入され、ほぼ確立されている。プロジェクトで導入された手順に基づきC/P機関が専門家の支援なしで業務を実施していけば、組織面での持続性は期待できる。懸念材料としては、2016年10月初めに選挙が予定されており、C/P機関で組織改編の可能性がある。

財政面での持続性はあまり高くない。ブラトナツツ市のラズベリー・ナーサリーは、将来的な財政面での持続性を視野に入れ運営を計画しており、こうした問題に取り組むための好事例になると考えられる。プロジェクトの支援により、受益者は初期投資としての資機材を供与され、これを元に生産を拡大するための活動を展開している。初期投資に充てる資機材があれば、農民が継時的に自立できる見込みは高い。しかしながら、この初期投資を十分に行うための資金を用意することが、農民にとっては困難となっている。プロジェクト期間中は、苗木や家畜などを配付することで初期投資を支援してきたが、プロジェクト終了後に各市でこうした支援を行う十分な予算が確保できるかは明確でない。

技術面での持続性はある程度見込める。プロジェクト期間中に、C/Pは計画・実施・モニタリングの能力を向上させ、プロジェクト終了後も引き続き業務に取り組む意思を有している。地域住民は、プロジェクトで実施したワークショップ・研修に参加し、プロジェクトによるモニタリング/スーパービジョンを受けることで、活動に必要な知識や技術を習

得しており、また、今後も活動を継続していく意思を有している。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・プロジェクトの活動計画のうち、農業に関する活動は植付けや収穫のサイクルを考慮して計画された。農牧業の生産高の増加につながっていると考えられる。これにより農業・農村開発事業の実施が促進されていると思料される。
- ・プロジェクトで実施する農業・農村開発事業の計画が適切に選択された。活動はすべて、地域のニーズに適しており、受益者にとって魅力あるもので、多くの場合、利益につながった。
- ・受益者に負担事項を課したことで、コストと責任が分担され、地域住民のオーナーシップが醸成された。例えば、ラズベリー栽培のケースでは、苗の供与を受ける者は、その前に自分で土地を用意し耕作をしておかなければならないなどである。
- ・住民が共同して参加できる事業を計画・実施した。事業実施のために、地域住民が共同で作業を行うことで、住民間のコミュニケーションや信頼関係が促進された。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・受益者選定やモニタリングのしくみなど、前プロジェクトでの経験を本プロジェクトの実施に適切に活用することができた。これにより、対象地域の住民の間での信頼醸成に加え、住民と市役所の間での信頼も向上していると考えられる。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし

(2) 実施プロセスに関すること

- ・納入業者の一部とトラブルがあり、農業・農村活動に必要な資機材を予定どおりに納入できなかった。このため、急ぎよ他の業者を探して対応した。
- ・小規模インフラ建設活動で、コミュニティのインフラ建設のために土地を明け渡さない住民がいたため、建設地を変更した。
- ・こうした要因はあったが、プロジェクトの進捗プロセス全体に大きな支障はなかった。

3-5 結論

プロジェクトは、おおむね順調に進捗した。

プロジェクトは対象地域のニーズと政策、日本の BiH に対する ODA 政策と合致しており、妥当性はおおむね高い。プロジェクト目標が達成されつつあり、有効性は比較的高い。投入は適切に行われ成果もある程度達成されつつあることから、効率性はおおむね高い。対象地域では、C/P 機関、MZ、NGO/農民組織/農業組合等関係者の中で信頼醸成が促進されていると判断され、インパクトは大きい。持続性は、財政面と組織面で若干の懸念材料があるため、中程度である。

期待された効果が達成されつつあることから、プロジェクトは予定どおり終了する。

3-6 提言

- (1) 3 市は、プロジェクトで導入した事業を継続して実施すること。そのために、プロジェクト期間中に予算と人員を確保しておくことが必要である。
- (2) 3 市は、支援を必要とする地域住民に必要なサポートを行うこと。そのためには、初期投資となる資機材を供与するための予算を確保することが不可欠である。適切な技術的助言を行うことも必要である。
- (3) C/P 機関は、現状調査に基づき、今後に向けた包括的な地域開発のための戦略的で実施可能なアクションプランを策定すること。
- (4) 3 市は、関係機関と協力のうえ、農業祭のような活動を引き続き開催していくこと。こうした活動は、地域住民の交流、意識の向上、地域の伝統の継承に資するものと考えられる。

3-7 教訓

- (1) 本プロジェクトの対象地域では、政府のガバナンスが脆弱で、それが地域開発や住民の信頼醸成の推進にも影響している。前プロジェクトで住民に対する直接的支援を中心に行い、本プロジェクトでは、市役所の能力強化に重点を置いた。紛争影響国で相手国政府のガバナンスが脆弱な場合は、まず政府のかかわりは最小限にとどめ住民へ直接支援する事業を実施することで、住民の生活環境を安定させ、その次に政府主導の事業実施環境を整えていくことが効果的な場合もある。
- (2) 本プロジェクトでは、農業・農村開発事業の受益者は、資機材を供与される際に何らかの義務を負うこととした。コミュニティ支援の活動では、受益者に一定の負担事項を負わせることにより、オーナーシップが醸成され、活動を適切に実施し、裨益効果を出すことができる場合がある。
- (3) 本プロジェクトでは、選定した農業・農村開発事業を実施するなかで地域住民の信頼を高めていった。地域住民や民族間の信頼醸成には、住民や民族グループが協働して参加できる「場」や「機会」を提供していくことが効果的で、具体的な活動を実践していくことで信頼醸成が促進される。活動が地域住民の経済基盤の強化につながるものであれば、住民は積極的に参加する。
- (4) 本プロジェクトでは、対象地域の農業・農村開発事業に関する支援として、個別の事業者へ資機材を配付し支援した。住民は配付された資機材を活用して積極的に事業に取り組み、収入を得ることができた。このように、個別住民への投入の伴う活動が、住民の事業への参加を促進し、好ましい結果を産む場合もある。その際、収入の増加につながるよう、

地域の経済の核となるような分野の事業を適切に選択して支援を行うことが重要である。

- (5) 対象住民の間で信頼醸成を図るには、受益者選定は、公平で透明性とアカウンタビリティをもつものでなければならない。これは、紛争の影響を受けた国や地域では特に重要である。本プロジェクトでは、受益者選定のプロセスを確立することで、信頼醸成の促進が可能になった。C/P 機関が受益者選定を継続して適切に行うため、プロジェクト期間中に受益者選定の手続きを確立したうえ、その手続きを C/P 機関だけで実施できるよう、C/P の能力強化を図ることが必要である。

3-8 総括

スレブレニツァとその周辺 2 市の安定化をめざす本プロジェクトは期待された成果を上げ、予定どおりに終了させることが妥当であると思料される。いずれの市でも、農業を中心とした生産活動が軌道に乗り、受益者の経済状況が改善。人心は安定し、平時には他民族に対する排他的な言動が影を潜めた。若年層を含む勤労世代の農村回帰もみられるようになったという。一方で、依然としてハイ・ポリティックスの影響を受けやすいスレブレニツァ市では、開発援助による平和構築の限界が改めて浮き彫りになった。「2 年に一度の選挙が和解の最大の阻害要因」（スレブレニツァ副市長）という同市では今なお、国及びエンティティ・レベルの政治対立がそのまま市議会に持ち込まれ、指導層の分断が解消できない状況が続いている。政治家の意向がそのまま行政に反映する市役所への住民の不信感も強い。プロジェクトを通じてコミュニティに再構築された住民間の信頼関係が今後、選挙結果に反映し、民族分断政治を乗り越えていくことができるか否か。コミュニティの紐帯の強靱性が、プロジェクト終了後に問われ続けることになる。

紛争影響国において、コミュニティ安定の要諦は①行政の統治能力（健全な行政サービス提供を通じて得られる統治の正統性と運用能力）②住民の帰属・連帯意識（コミュニティの一体感、排他的プロパガンダに抗する強靱性）③自立できる生計手段の確保である。本プロジェクトは、住民の経済活動を行政主導で促進することを通じ、これらすべての課題にアドレスするものであった。

ブラトゥナツ市では、両民族の計約 3,000 世帯がラズベリー栽培に従事するようになり、2016 年は市全体で約 4,000t を産出。計 1,500 万 KMC の収益をもたらし、「ボスニアの中でもラズベリー栽培のリーダー的存在となった」（市長）という。世銀が RS の 3 市のみで実施する灌漑プロジェクトの対象にも選定され、エンティティ政府と分担してローンを返済していくと言い、財政基盤も安定している。同市では経済局が全農業従事者のデータベースを作成してニーズを特定し、プロジェクト専門家と協力して裨益者を選定。民族を越えたクライテリア（選定基準）の遵守により、民族間関係は安定している。

紛争中、多くのボシュニャック被害者を出し、現在の住民すべてが帰還民である「ジェパ」を抱えるロガティツァ市でも民族間の融和が進んだ。同地域プロジェクトで、養蜂業の支援を受けた受益者は「セルビア系の講師から指導を受けで事業を始めた。既に民族間のわだかまりはない」という。同ボシュニャック地域の子どもたちはキリル文字を使ったセルビア語の教科書を使用し、セルビアのカリキュラムで教育を受けているといい、民族教育へのこだわりは存在しない。

これら2市では、受益者選定の公平性・公正性により市役所が信頼を獲得、民族間の関係も改善したうえ、受益者の住民が自立可能な収入を得るようになり、共同体が安定を回復した。

スレブレニツァ市でも、農業生産が向上し住民間の信頼醸成が進んだ。前プロジェクト開始前には年間50tだったラズベリーの収穫高が約16倍の800tまで増加。ジャガイモ加工工場や蜂蜜加工工場も完成し、経済活動が著しく改善された。これらの活動に参加する住民に民族による差別は存在しない。ラズベリー栽培農家には民族の分け隔てなく、両民族の業者が果実の買い取りに回っている。「どの業者に売るかは価格次第。民族には無関係」（ブレジャニ地区住民）という。

その一方で、スレブレニツァ市では市役所に対する住民の不信感は依然として根強い。「議会が承認した予算を、市行政が執行する段階で不正が発生する」（スーチェスカ地区住民）、「プロジェクトは市を排除して行うべき」（サセ地区住民）等の声も聞かれた。前プロジェクトのC/Pによると、市予算はセルビア系とボシュニアックの間で二分され、それぞれの指導者が恣意的に住民に配分する状況が継続している。人口比には無関係の政治決着であり、現場のニーズは斟酌されない。現在、セルビア系勢力は独立社会民主同盟（SNSD）、ボシュニアック勢力は民主行動党（SDA）の影響下にあり、市行政は民族別に分断されて各民族政党の「統治」を甘受している。市長が市幹部を任命する際も、これら政党が政治的にポストを配分する。両党は相互不可侵の関係にあり、各党の自民族地域支配を容認し合っている。こうした環境下、住民が政治勢力の統治の正統性を受け入れるのは困難であり、ドナーによる開発援助が短・中期的に対応し得る領域を超えているともいえよう。

結論として、今回のプロジェクトはプラトゥナツ市、ロガティツァ市では上記した安定のための3つの要素すべてを満たすに至り、スレブレニツァ市でも現在の政治環境では開発援助で対応が困難な「行政の統治能力」以外の課題をクリアした。プロジェクトとしての成果は十分であり、成功裡に事業を遂行したと評価できるだろう。

最後に、今回の調査中、スレブレニツァ市の将来に期待を抱かせる動きがみられたことを付言しておく。奇しくも両民族の受益者から異口同音に同じ内容の決意表明がなされたのである。「今後、中道勢力として政治活動に従事し、民族主義政党主導の政治環境を打破していく」という。プロジェクトがコミュニティに蒔いた「安定」の種が、次第に根づいて開発の枠組みを超え、いずれは政治をも動かす健全な市民社会を形成することに寄与するかもしれない。長期的視点に立って、近い将来、本プロジェクトに対する再度の評価を仰ぎたい。

Summary of Terminal Evaluation

I. Outline of the Project	
Country : Bosnia and Herzegovina	Project Title : The Project for Confidence-Building through Rural Development
Sector : Peacebuilding	Cooperation Scheme : Technical Cooperation Project
Department in Charge : Office for Peacebuilding and Reconstruction, Infrastructure and Peacebuilding Department	Cooperation Amount (At the time of evaluation) : Approximately 310 million yen (1US\$=¥103.2 as of 1 September, 2016)
Cooperation Duration : January 2014 – March 2017	Counterpart Organizations : Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management (MOA), Republic of Srpska (RS) Bratunac Municipality, Rogatica Municipality, Srebrenica Municipality
	Relevant Japanese Organizations : N/A
	Relevant Assurances : Project for Confidence Building in Srebrenica on Agricultural and Rural Enterprise Development
1-1 Background and Outline of the Project	
<p>It is more than 20 years since comprehensive peace agreement was made in Bosnia and Herzegovina (BiH). Under the central government of BiH, there are two entities (administrative entity with high autonomy); one is the Republic of Bosnia and Herzegovina, consisting of Muslims (Bosniaks) and Serbs, the other, the Republic of Srpska (RS), with the majority population of Serbs as well as some population of Bosniaks. The progress of reconciliation between two ethnicities, Bosniaks and Serbs, is still slow.</p> <p>To facilitate the reconciliation process through agricultural and rural development, JICA supported implementation of the Project for Confidence Building in Srebrenica on Agricultural and Rural Enterprise Development (September 2008 – November 2013). In the Project, a variety of development projects were implemented, including herb production/processing, vegetable cultivation, beekeeping, and operation of playroom for children, and cooperation was implemented for reconstruction of local communities and for financial independence of local people. As a result, it was confirmed that income of beneficiaries was improved and that transparency was improved through information disclosure and exchange, which is necessary for stabilization of multi-ethnic society.</p> <p>The Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management (MOA) of RS highly appreciated the results of the Project and sent a request for further cooperation. With this backdrop, JICA has been implementing the Project for Confidence-Building through Rural Development since January 2014. The target area is expanded to three Municipalities, namely, Bratunac, Rogatica, and Srebrenica. Activities similar to those of the previous project are implemented, with a focus more on the involvement of</p>	

Municipalities to enhance sustainability, and thus, to promote reconciliation among local population.

1-2 Contents of Cooperation

The Project is implemented in three target Municipalities (Bratunac, Rogatica, Srebrenica) to strengthen implementing system of Municipalities for inclusive and fair community development through agricultural and rural development, capacity development of Municipalities, and information sharing with RS MOA, and thus aims to contribute to confidence-building among the target population.

(1) Overall Goal: Confidence-building among the target population is promoted through strengthening the system of agricultural and rural development with inclusiveness and fairness.

(2) Project Purpose: Implementation system for inclusive and fair community development is strengthened in each target area.

(3) Outputs :

Output 1: Agricultural and rural development activities for improved livelihoods are implemented based on community needs.

Output 2: Institutional capacities of the target municipalities in supporting agricultural and rural development are strengthened.

Output 3: Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA.

(4) Inputs

Japanese side: Total cost approximately 310 million yen

Equipment: 9 million yen;

Long-term Expert: 2; Short-term Expert: 1

Trainees received: 14

Local Cost: 211 million yen (as of 31 July, 2016. Equivalent to 3,614,289.16KM:1KM=¥58.4)

BiH side

Counterpart: 18 (cumulative total);

Office and facilities: Office space for the Project, land for nursery

Cost for project: Cost for training and workshop, cost for construction of small-scale infrastructure, cost for rehabilitation of honey processing plant, other necessary expenditures for project activities

II. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	Japanese side
	1. Dr. Keiichi HASHIMOTO Senior Advisor (Peace-building), JICA
	2. Ms. Maki YAMAGISHI Special Advisor, Office for Peacebuilding and Reconstruction, Infrastructure and Peacebuilding Department, JICA
	3. Mr. Jun HIRASHIMA Project Formulation Advisor, Balkan Office, JICA
	4. Ms. Erika TANAKA Senior Researcher, Global Link Management, Inc.
BiH side	
1. Mr. Vladislav TRIFKOVIC Head of Department for Agriculture Policy and	

	<p>International Cooperation, Ministry of Agriculture, Forestry and Water Management of Republic of Srpska</p> <p>2. Mr. Vladan MILOVANOVIC Director of Department of economy and development, Srebrenica Municipality</p> <p>3. Mr. Radenko RADOVIC Director of Department of economic and social affairs, Bratunac Municipality;</p> <p>4. Mr. Darko NOVAKOVIC Director of Department of economic and social affairs, Rogatica Municipality.</p>	
Period of Evaluation	27 August 2016 – 18 September 2016	Type of Evaluation : Terminal Evaluation
III. Evaluation		
3-1 Project Performance		
(1) Project Purpose		
Project Purpose: Implementation system for inclusive and fair community development is strengthened in each target area.		
(Indicator)		
1) The number of cases and types of agricultural and rural development activities initiated by the municipalities are increased by the end of the Project period.		
2) Satisfaction of community people in the target areas increased with public services (agricultural support, information service, others) relating to community development.		
3) The income of the targeted population is increased.		
(Achievement)		
The Project Purpose is being achieved. Out of the three Indicators, Indicator 1 and 2 are expected to be achieved. As to Indicator 3, the increase of income of beneficiaries is not clearly observed at the time of the terminal evaluation, but there is a prospect that the Indicator will be achieved.		
1) There are some examples of activities initiated by Municipalities. In Bratunac, the Municipality established a nursery organization to grow and distribute raspberry seedlings. In this activity, the Municipality provided the land for nursery and JICA provided initial seedlings. UNDP, as a part of donor collaboration, provided fences for the nursery area. Through the nursery organization, seedling will be distributed to those who start raspberry growing. Municipality is planning to get the nursery organization financially self-sufficient in a few years. Following the establishment of nursery by Bratunac, Srebrenica Municipality is also planning to establish a similar nursery organization. Rogatica is planning to establish a sheep breeding center on their own.		
2) According to the interviews during the terminal evaluation, most of the beneficiaries are satisfied with the activities supported by the Project. Some of them commented that the communication with Municipal office has been improved during the project activities. One C/P personnel commented that the Municipality has more request for advice from the community people. The Municipality also played an important role in solving the dispute among community people during		

the Project activities. These facts show that the satisfaction and trust toward the public service of the Municipalities is improving among community people.

- 3) According to the endline survey conducted by the Project, in Rogatica, the ratio of the number of household that has income more than 3,000KM clearly increased from 52% to 85% during the period from 2014 to 2016. In Srebrenica, the ratio of number of household that has income of 1,000KM to 6,000KM increased slightly from 45% in 2013 to 51% in 2016 but the ratio of household with more than 6,000KM decreased from 53% in 2013 to 43% in 2016. In Srebrenica, JICA's support has been implemented since 2006, therefore, in 2013, when the Project was started, increase of income had been already realized to some extent. This may be the reason why the increase of income in Srebrenica is not clearly observed. Most of the beneficiaries interviewed gained income increase through the activities introduced by the Project.

(2) Output

Output 1: Agricultural and rural development activities for improved livelihoods are implemented based on community needs.

(Indicator)

- 1-1) The number of activities implemented by the municipalities and related organizations such as MZs and NGOs (MZ: local community under municipality)

(Achievement)

The target of the Indicator is not clearly defined in PDM. As various agricultural and rural development activities are implemented, Output 1 is expected to be achieved.

- 1-1) In three target Municipalities, a variety of activities for agricultural and rural development were implemented in cooperation among C/P organizations, Japanese experts, and related NGOs/associations/cooperatives. Examples of activities are; raspberry cultivation, fruit tree cultivation, vegetable growing, cattle feeding, grass restoration, and construction of small-scale infrastructure. Approximately 2,500 people were benefitted through agricultural and rural development activities in total. In addition, there are more beneficiaries of activities for community in common, such as grass restoration and agricultural machines. In selection of beneficiaries, the Project took careful considerations to the ratio of ethnicities, Serbs and Bosniaks.

Output 2: Institutional capacities of the target municipalities in supporting agricultural and rural development are strengthened.

(Indicator)

- 2-1) The number of applications for "subsidies" from the target areas to RS MOA is increased.
2-2) The number of "project proposals" by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased.
2-3) The number of approved proposals from the target areas is increased.
2-4) Information of agriculture and rural development is collected and recorded by each Municipality.
2-5) Information dissemination activities are conducted by Municipalities at least once a year.

(Achievement)

The institutional capacities of the target municipalities are improving and it is estimated that Output 2 is being achieved.

- 2-1) The number of applications for “subsidies” from the target areas is increasing. Farmers engaged in the communities are eligible to apply for subsidies by RS MOA if they have a certain level of yields. This subsidy is applied to those growing raspberry and feeding cows. It is reported that, thanks to the Project activities, the yields of agricultural products have been increased, therefore, it is considered that the number of application for subsidies is increasing, according to the interviews. The Municipalities are providing farmers with necessary support to facilitate the process of application for subsidies.
- 2-2) The number of “project proposals” by farmers and agricultural associations submitted to RS MOA is increased. Local residents submit “project proposals” to the Municipalities when necessary. For example, Rogatica Municipality calls for public proposals on capital expenditures and the proposals can be incorporated into the Municipality budget plan, if approved. This shows that the Municipalities have policy to implement activities consistent with request by local people and system to implement them.
- 2-3) The number of approved proposals from the target areas is increased. During the interview, it was found out that the proposal presented by one non-profit organization, Tourist Organization, was approved and incorporated into the budget plan of 2016 in Rogatica.
- 2-4) Each Municipality is collecting information of agriculture and rural development. Also, in Bratunac and Rogatica, monitoring results of activities are recorded and stored in database. Srebrenica does not have such database at the time of the terminal evaluation.
- 2-5) Each Municipality regularly conducts information dissemination such as tender and beneficiary selection. In addition, the Municipalities provide technical advice to community people and associations. In Bratunac, the Municipality gives technical support in collaboration with a raspberry expert implementing field activities.

Output 3: Information about capacity development of the Municipalities and livelihood improvement activities is shared with RS MOA

(Indicator)

- 3-1) Reporting and sharing information to RS MOA at regular basis.

(Achievement)

Output 3 is being achieved.

- 3-1) Each Municipality exchanges information with RS MOA and information is shared between RS MOA and each Municipality. In each Municipality, C/P personnel plays a key role in sharing information with RS MOA.

3-2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

Relevance of the Project is high in general.

The needs of the Project is high. There are considerable number of conflict-affected people in the target area. The majority of those still have economic difficulties. Given the past conflict between the Serbs and the Bosniaks, confidence-building is required to strengthen the capacity of communities. In addition, to implement sustainable rural development, capacity development of municipalities is necessary. In target Municipalities, it is difficult to create employment as opportunities are still limited, and the majority of population depends on agriculture.

The Project is consistent with the policy of BiH government and target Municipalities. In the strategic plan for the development of agriculture and rural areas of the Republic of Srpska (2015-2020), in “Vision”, agriculture together with the food processing industry is described as one of the leading economic sectors. In Vision, it is also stated that in rural areas all the social classes should be able to perceive their living environment on equal footing. This may imply the needs for confidence-building among ethnicities. In the development plan of target Municipalities, agriculture is the priority area. The Project selected the activities related to agricultural products of strategic priority of each Municipality.

The Project is consistent with Japanese policy of Official Development Assistance (ODA) toward BiH. In the country assistance policy of BiH, the main objective is support to stabilization of society and development of economy. Under this main objective, there are two priority areas, one is continuous peacebuilding and ethnic reconciliation, and the other, sustainable economic development with consideration to environment. The Project is included in the programs under the priority of continuous peacebuilding and ethnic reconciliation.

The Project design is appropriate in general. Some Indicators are not appropriately defined due to lack of information in the planning stage.

(2) Effectiveness

Effectiveness is relatively high.

Indicators of output 1, 2, and 3 are being achieved. Indicator 1 and 2 of the Project Purpose are being achieved, and in terms of indicator 3 of the Project Purpose, the increase of income of the targeted population, it cannot clearly be observed at the point of the final evaluation of the project, yet according to the interviews, many interviewees answered that the income increased through the project. Thus indicator 3 is expected to be achieved. From the reasons above, it can be said that the Project Purpose is being achieved.

Logic from Output to Project Purpose is appropriate to some extent. Both Output 1 (agricultural and rural development activities) and Output 2 (institutional capacity of target Municipalities) are necessary components to achieve the Project Purpose, i.e., implementation system for inclusive and fair community development. Output 3, information sharing with RS MOA may be theoretically an important component to strengthen implementation system of community development. The involvement of RS MOA in the Project is practically limited to technical advice, and the significance of information sharing for the achievement of Project Purpose in the target municipalities is not clearly identified.

In addition to the Outputs described in PDM, there are some outputs produced by the project activities. First, as a result of enhanced communications among three Municipalities, new activities have been

launched. For instance, Srebrenica is planning to establish a raspberry nursery just like the one already done in the operation in Bratunac. Another example is that Srebrenica purchases sheep from Rogatica. In addition, one old school standing next to the project office in Skelani, Srebrenica, is renovated as a food processing plant by the budget of Srebrenica Municipality. Moreover, during the period of the terminal evaluation, Agricultural Fair took place at the livestock market constructed by Japanese Grant Assistance for Grassroots Human Security Project.

(3) Efficiency

Necessary inputs are implemented to conduct planned activities, and activities effectively produced outputs. Thus, efficiency is high in general. It is also noted that outputs are being achieved.

Logic between inputs and outputs is appropriate. Two Important Assumptions for the achievement of Output are defined. One is natural disaster, and the other is damage to crops by diseases and harmful insects. The achievement of Outputs was somewhat affected by the Important Assumptions. However, the influence was not so significant as to diminish the outputs of the Project as a whole.

(4) Impact

Impact is high.

Overall Goal is likely to be achieved. Confidence-building among ethnicities is progressed in target communities. Through the project activities, people are willing to work together, share equipment, and socialize with each other. In addition to building the confidence among local population, the confidence between municipality and local people is also increasing. In order to promote confidence-building further, it is necessary to implement activities where people can work together continuously, with the initiative of the target Municipalities. One of the potentially inhibiting factors for the achievement of Overall Goal is the change of social and economic situations as well as social securities.

The logic between Project Purpose and Overall Goal is appropriate. As described above, it is effective to implement appropriate agricultural rural development activities to build the confidence. To implement activities continuously, it is necessary to strengthen the implementation system of target Municipalities.

Various additional impacts are observed. First, after the introduction of agricultural and rural development activities by the Project, the number of people to migrate to other municipalities to seek employment is decreasing because their income is increased, according to some interviews. Another impact is dissemination of information of the Project to areas other than target Municipalities. If the experiences of confidence-building in target communities are disseminated nation-wide, it may further stimulate awareness toward reconciliation.

(5) Sustainability

Sustainability is medium.

Sustainability in policy aspect is high. The government policy to place importance on agricultural and rural development will be maintained both at RS MOA and municipality levels.

Organizational sustainability is expected to some extent. The management capacity of C/P organizations

is gradually improving. Through project activities, working structure such as beneficiary selection and monitoring was introduced and quite well established at target Municipalities. If C/P organizations continuously implement their duties in accordance with the working structure established during the Project, organizational sustainability is expected to sustain even and without support by Japanese experts. After the election planned to be held in the beginning of October, there is a possibility of organizational change in C/P organizations.

Financial sustainability is not very high. The raspberry nursery operated by Bratunac Municipality may be a good example to solve this problem in that the Municipality tries to get the nursery financially self-sufficient in the near future. Through the support of the Project, the beneficiaries have acquired initial resources and they are willing to work on the assets to enhance their productive activities. Once they secure the initial assets, there is a good chance for them to become financially self-sufficient. However, it is always difficult for farmers to get funds for sufficient initial investment. During the Project, JICA provided initial investment such as seedlings and livestock. After the project completion, it is not certain if the Municipalities have sufficient budget to provide such initial investment.

Technical sustainability is expected to some extent. During the project period, C/P personnel enhanced capacity of planning, implementation, and monitoring and they are willing to continue their work after the project period. Community people acquired knowledge and techniques to implement activities through workshops, training, and monitoring/supervision provided by the Project and they are willing to continue their activities.

3-3 Factors Promoting Better Sustainability and Impact

(1) Factors concerning the Planning

- Project implementation plan was carefully planned. For example, the implementation of agricultural activities was planned in accordance with sowing and harvesting cycle, and it led to increased output. This promotes the implementation of agricultural and rural development activities.
- Agricultural and rural development activities were carefully selected. Activities are consistent with the local needs, attractive to beneficiaries, and profitable in most cases.
- Beneficiaries are given obligations to obtain materials supplied by JICA. By doing this, sharing cost and obligation nurtured the sense of ownership among community people. For example, beneficiaries for raspberry growing should till their field before obtaining seedling.
- Activities are planned and implemented so that community people can participate in collaboration. Through the collaborative work, communication and confidence are promoted among community people.

(2) Factors Concerning the Implementation Process

- Experiences of the previous project were appropriately incorporated in the project implementation such as beneficiary selection and monitoring. This built up the confidence among local people and the trust between the community and the Municipalities.

3-4 Factors Inhibiting Better Sustainability and Impact

(1) Factors Concerning the Planning

Nothing special.

(2) Factors Concerning the Implementation Process

- There was a delay in procurement process because the supplier did not provide materials as planned. The Project had to find another supplier.
- In construction of small-scale infrastructure, some residents did not want to concede their land for the road construction in the community and the Project had to change the construction site.
- Despite these factors, overall the process of the project went well.

3-5 Conclusion

The Project has been implemented smoothly in general.

The Project is consistent with the needs and policy of the target area as well as Japanese ODA policy toward BiH. Therefore, relevance is general high. As the Project Purpose is being achieved, and effectiveness is relatively high. Inputs are implemented appropriately and the expected Outputs are achieved to some extent. Therefore it can be said that efficiency is high in general. It is considered that confidence-building is progressing in target communities and relevant stakeholders such as C/P organizations, MZ, and NGOs/associations/cooperative, and impact is high. Sustainability is medium because there are some concerns in financial and organizational aspects.

It is confirmed that the expected benefits are being achieved, consequently, the Project will be terminated as planned.

3-6 Recommendations

- (1) It is required that the three Municipalities continuously implement the activities introduced by the Project. To realize this, it is necessary to allocate necessary budget and personnel based on the plan prepared during the project period.
- (2) It is recommended that three Municipalities provide support to community people who need assistance. This should be implemented by securing budget to provide them with materials as initial investments. Appropriate technical advice is also necessary.
- (3) It is recommended that C/P organizations develop a feasible strategic action plan for the comprehensive local development based on the field survey.
- (4) It is recommended that three Municipalities, in collaboration with relevant organizations, continuously organize activities like Agricultural Fair, which will be beneficial to promotion of interaction of local population, improvement of awareness, and continuation of traditional activities.

3-7 Lessons Learned

- (1) In the Project, beneficiaries of agricultural and rural development activities are supposed to execute some obligations before obtaining materials. In the activities to support community, it is effective to give beneficiaries a certain obligations in order to enhance their commitment and to successfully implement activities.
- (2) In the Project, confidence among community people has been improved while they implement activities supported by the Project. For confidence-building among community people and/or between ethnicities, it is effective to offer “venue” or “opportunity” where community people and ethnic groups can participate in collaboration. Confidence-building will be promoted during the implementation of specific activities. If the activities are beneficial to strengthen economic foundations, people will actively participate.
- (3) To build the confidence among target population, it is required to secure fairness, transparency, and accountability in beneficiary selection. This is especially important in conflict-affected countries and regions. In the Project establishing the procedure for beneficiary selection led to confidence-building. In order for the C/P organizations to continuously implement appropriate beneficiary selection, it is necessary to establish the selection procedure during the Project period and to strengthen the capacity of C/P personnel to implement the procedure.